

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	和気町立佐伯小学校	実践者名	角田 直也
教科等	理科	学年	第6学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 3
育成したい 資質・能力	児童が、日常生活の事象に疑問(課題設定)をもち、解決するための実験方法(情報の整理・分析)を考えることで、探究的に学習を進めることのできる資質を高める。		
単元・内容等	『植物のからだのはたらき』		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	学習意欲は高いが、受動的な学習に慣れている。端末を日常的に使用することができおり、板書を撮影してClassroomにアップすることなどが習慣となっている。		
活用の概要(使用アプリ名を含む) ※写真も掲載する			
【単元構成】 ・第1時 導 入：課題の把握・実験Ⅰ ・第2時 課題設定：実験Ⅰより、知りたいことを整理する。 ・第3時 情報整理：実験Ⅱ～Ⅴについて実験方法を整理する。 ・第4時 情報整理：実験の準備を行う。 ・第56時 整理分析：実験を行い、記録をまとめる。 ・第7時 分 析：実験の考察を行い、追実験(再課題設定)を行う。 ・第8時 まとめ：追実験の考察を行い、内容を整理する。 【単元イメージ】			
実践者の手ごたえ		児童の振り返りや反応等	
児童の主体性が増すと、会話量が増えた。児童が学習内容を考えようとすることで、教科書の内容だけでなく、中学校の学習内容まで学びが深まった。一方で、教科書の内容を逸脱しすぎないように話し合いを調節し、繰り返し発問などを吟味する必要があると感じた。		(児童の様子) 「やってみよう」「おもしろそう」という発言が増え、休み時間などにも実験したり観察したりする姿が目立った。児童が導いた実験方法であったため、実験の理由や導きたい結果などを全員が共有でき、実験がスムーズに行えた。	